

我が校の強み弱み分析・評価シート

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要と強み・弱み》調査人数が少ないため、全体的な傾向を捉えることは難しいですが以下の結果が見られました。

<教科について>

- ・国語科では、「話すこと」「書くこと」「読むこと」の領域においては、県の結果と大きく変わることはありませんでしたが、「我が国の言語文化に関する事項」「問題形式 短答式」の領域においては、県や全国よりも特に低い正答率となりました。
- ・算数科では、「図形」の領域においては、県を上回る正答率でした。しかし「数と計算」「データの活用」「変化と関係」の領域では、県や全国よりも低い正答率となりました。

<児童質問紙について>

肯定的に回答する児童が多い項目

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」

課題の見られる項目

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」、「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」、「解答時間は十分でしたか」

【指導の充実に向けて】

本校教育の充実と課題解決のため、つぎの項目において重点的に取組を進めます。

1. チーム担任制による児童理解、生徒指導の充実

⇒今年度から、チーム担任制を導入している。チーム学年でクラス替えがあり、複数教員が学級に関わることで、人間関係の閉塞感を減らし、多面的な児童理解が進められることをねらいとしている。また、皇子山中学校区の5つの約束についても継続して指導し共通実践していく。小中連携を図りながら、児童が自らあたりまえのこととして取り組んでいけるように、「あいさつ」や「くつそろえ」の啓発など工夫を図りながら指導を進める。

2. 授業改善・学力向上

- ⇒・児童教師ともに「わかった」「できる」の喜びを味わわせるためにめあてを明確にし、単元のゴールを見据えた授業づくりを進める。ペアやグループでの話し合い活動を取り入れながら、お互いの意見を認め合い、合意形成できる力を育めるように授業改善を図る。また、朝のチャレンジタイムや学習教室を通して、基礎学力の向上やつまずきの克服に努める。
- ・図書室の環境整備を進め、読書の推進を図る。読書・読み聞かせ等、本にふれることで、表現力や語彙力を養っていく。

3. ICTを活用した学習やプログラミング学習の促進

⇒1年生から、タブレットを積極的に使用している。教員は積極的にICT機器を活用し、ICTの利点を生かした授業づくりを推進する。児童のプログラミング的思考を培うために、社会人活用は3年目になり、引き続き社会人活用の先生の助言を受けながらプログラミング教育の基盤を構築していく。

4. 特別支援教育の促進と充実

⇒総合的な学習の時間に社会福祉や障がい者理解について学習する機会を位置づけ、系統的な学びを推進する。

5. 地域と学校の絆を結ぶ教育

⇒地域のことを大切に思う児童が多くいることは最大の利点である。コミュニティスクールの観点から地域との連携を図り、藤尾のことについて学ぶため、地域の方を講師として招聘したり、学習広場の取組や地域に根差して地域人材を活用した取組をしたりするなどのさらなる活性化を図る。HPや学校だより等で地域への発信を随時行っていく。